

令和元年度地域学校薬剤師研修会

日程：令和元年10月23日（水）19時30分～21時00分

場所：アミュゼ柏

千葉県学校薬剤師会
副会長 藤波宏忠

千葉県学校薬剤師会の地域サポート事業として、東葛5支部合同の学校薬剤師研修会が行われました。参加者は学校薬剤師が56名と、スクールカウンセラー4名で、会場は満席となりました。

今回のメインとなる研修として、千葉県スクールカウンセラーのスーパーバイザーである高井千鶴先生にお越し頂き、「スクールカウンセラーの活動とは」をテーマとして、我々の知らないスクールカウンセラーのことを詳しくご講演頂きました。スクールカウンセラーは、千葉県においてははじめなどの問題をきっかけに、平成7年より文部省スクールカウンセラー活用調査委託事業として14名配置され、令和元年の現在では県内中学校321校、小学校150校、高校80校に配置されております。スクールカウンセラーは児童生徒が人生の中で初めて出会う心の専門家であるため、最初の対応次第でカウンセラーへの信用など影響がとて大きくなっています。主な仕事としては児童生徒に対する相談・助言のみならず、保護者や教職員に対する相談なども行います。また、研修・講話を実施したり、ストレスマネジメント等の予防的対応を取ったりなど様々な活動を行っています。実際に学校へ行くのは週1日5～6時間程度とのことで、その少ない時間と難しいタイミングの中で、何ができるかがポイントとなるそうです。実際に面談を行う際の相談以外にも、校門をくぐってからの雰囲気であるとか、相談者以外の付き添いの生徒の雰囲気や、カウンセリングルームに遊びに来た生徒の様子など様々な面を観察しているとのことでした。相談活動においては実例を交えて説明頂きましたが、守秘義務や周囲との連携で、慎重になる問題もあり、児童生徒の心理だけでなく、今後の成長や家庭環境などもよく考えたうえでの対応をしていることが良く分かりました。

サブテーマとして、「学校環境衛生検査で使われる検査機器について」として、昨年改正された学校環境衛生基準をもとに、主に教室の空気検査で扱

う検査機器の解説が行われました。こちらは松戸市学校薬剤師会のご協力により、実際の機器を用いて、4つの班に分かれ実技を見ながら、触れながらの研修になりました。エアコンの導入により、気流や浮遊粉じんの計測が必要となるため、その検査方法を参加者一同真剣に勉強しておりました。



高井千鶴講師



令和元年度学校保健講習会及び薬物乱用防止教室講習会 開催報告

千葉県学校薬剤師会
常任委員 杉谷宏枝

令和元年10月27日(火)千葉県薬剤師会会議室にて164名の先生方にご出席いただき、学校保健講習会及び薬物乱用防止教室講習会が開催されました。台風15号、19号、大雨による風水害の被害に遭われた先生もいらっしゃる中、多くの先生にご参加いただき会議室は満席でした。

初めに学校保健講習会として 東京ベイ浦安市川医療センター救急集中治療科 本間洋輔先生に「薬剤師に知ってほしいアナフィラキシーと心臓突然死実技付き」と題してご講演いただきました。まずはアナフィラキシー症状やエピペンの適応についての説明後、

先生のご施設での研究から成人アナフィラキシー患者におけるエピペン使用有無の検討結果をお示しいただきました。その中でエピペンが処方されていたにもかかわらず使用しなかった患者さんが11名おられました。その内訳は 期限切れ7名、使用方法不明1名、使用するタイミング不明1名、副作用が怖い1名、不明1名でした。薬剤師が期限切れ防止のため、患者さんにエピペンのお知らせ通知書の登録を勧めるなど介入できることがあるのではないのでしょうか?次に心臓突然死は日本において1年間に約78,000件起っており、1日200人以上がお亡くなりになっているとのことです。胸骨圧迫とAEDを行うことにより助かる確率が4倍となり心臓突然死からの社会復帰が可能となります。簡易的トレーニングキットとアニメーションビデオを用いることで胸骨圧迫とAEDの使い方



本間洋輔先生

方を効率よく学習できるPUSH



【胸骨圧迫 簡易トレーニングの様子】

プロジェクト心肺蘇生トレーニングキットを一人1台ずつお借りして実技を行いました。AEDがどこに置いてあるのを知り、正しい胸骨圧迫やAEDの使用ができるように定期的な実地訓練を行い 薬剤師から繋ぐ「命の輪」を作ってください!と締めくくられました。

次に薬物乱用防止教室講習会として 関東信越厚生局麻薬取締部調査総務課の現役の麻薬取締官の先生に「違法薬物の最新情報について」ご講演いただきました。麻薬取締官は厚生労働省に所属し、薬物犯罪についておとり捜査も可能で逮捕、捜査、取り調べを行い拳銃も携帯しておられるそうです。薬物犯罪捜査のみならず 鑑定業務、正規流通の麻薬監視指導、薬物中毒再乱用防止対策、薬物乱用防止啓発活動を業務としています。①最近の動向としては 未成年者に覚醒剤は減少しているが、大麻が増加していることが挙げられます。千葉県は平成29年覚醒剤検挙数が全国5位、大麻検挙数が全国10位でした。②薬物の種類と作用ということで大麻・覚醒剤・コカイン・MDMA・LSD・マジックマッシュルーム・あへん系麻薬・危険ドラッグの薬理作用、有害作用などについて実際の逮捕者の様子などを交えて興味深いお話を伺うことができました。またアメリカコロラド州の大麻解禁により密造密売が減らないこと、ホームレスの増加、労働市場の影響(採用困難)、交通事故の増加、中毒などの救急件数の増加、犯罪発生率の増加が起きているとの情報をいただきました。③薬物から身を守るため「1回だけなら」「ちょっとだけ」「疲れがとれる」「気分がスッキリする」と誘われても断る!自分だけではなく家族にも悪い影響を与えてしまう。子供たちに薬物の怖さを教えることが大切であると学校薬剤師にとってとても有意義なお話でした。

今回のご講演を拝聴し、また実際に胸骨圧迫を体験し、青少年の成長過程の早い段階からの救命講習や薬物乱用防止教室などの教育が児童生徒の健康と安全を担うため必要であると改めて認識することができました。今後の学校薬剤師活動に役立てたいと思います。